所沢市立美原中学校

学校だより No２

令和３年度　第２号
５月　７日　（金）

学　校　教　育　目　標
・進んで学ぶ生徒（知）
・心豊かな生徒（徳）
・たくましい生徒（体）

～はじめに子どもありき～「未来を切り拓く生徒」

　まず初めに私の経営理念の根幹は、入学式に１年生にもお話した美原中学校に脈々と流れる「はじめに子どもありき」の考え方です。本年度、学校にいるすべての教職員で再確認します。そして、それをもとに学校経営方針は、「未来を切り拓く生徒」の実現とします。最後に目指す学校像としてのキーワード「本気の笑顔を体験できる美原中学校」としました。「はじめに子どもありき」の理念を教職員がよく理解し、全教職員と全生徒で「本気の笑顔を体験できる美原中学校」を目指し活動します。その体験を重ねることで、「未来を切り拓く生徒」の育成ができると考えました。この３つが本年度、私の学校経営方針のキーワードです。

【途中略】「はじめに子どもありき」の理念ですが、これを提唱している元東京学芸大学教授、平野朝久先生です。この内容は、平野先生の言葉で説明すると、『 子どもは本来、学ぶ意欲を持ち、自ら追求し、学び自分で自分を創っていく力（能動的学習者）を持っているのである。子どもは、能動的学習者である子どもの学習および教育は、常に、その子どもが今何を考え、感じ、求め、困っているか等々の事実を出発点として、**絶えずそこへ立ち返らなければならない**。進むべき方向もそこから考えることになる。すなわち、**「はじめに子どもありき」**でなければならないのである』というものです。子どもを放置して、好きなことだけやらせてればいいという考えとは、大きく違うことは、理解してもらえると思います。

　「未来を切り拓く生徒」では、未来などと言うと大きく構えてしまいますが、一瞬先も未来ならば１０年先２０年先も未来になります。切り拓く」のひらくは、開拓の拓を使っています。一人ひとりの生徒が自分の特性を生かし社会や集団の中で生きるためにつながっていく術を開拓するという意味です。自分の特性とは、簡単にいうと自分の得意なこと、興味のあることです。得意なことなど自分は、ないという人がいるかもしれませんがこれについて、この機会で少し説明します。得意な力を３つのタイプで紹介します。１つ目は、生まれながらに天才的な才能に満ちあふれた人です。芸術家に多いように感じますが、【途中略】先ほどの一瞬先（未来）に見つかる才能と関係があります。天才は、極めて少ないのは、皆さんなら理解できると思います。２番目は、物事を成す術を上達させるには、「好きこそものの上手なれ」の諺に代表されるように、それを好き（または、すでに好き）になることで身につく力です。何事も好きなことは、自然と熱中する、進んで工夫できる努力をするのが苦になりません。したがって上達が早く、技術の向上が早く一番の近道ということで身につける人です。第３番目は、必然性（必ず持っていなければならない）によって身につける術のことです。好き嫌いは別にして生きるため・目的のために身につけなければならない能力です。入学試験の学力、就職するために運転免許や様々な資格を得ることから始まり、信頼関係や人間関係をつくる術など多くのことがあげられます。以上のよ

うなことから「未来を切り拓く生徒」への変容へのきっかけは、３つのうちのどれでも、いつも自分の良さを求めていて、あるときの一瞬にはじめて気がつきます。求めていないとスルーしてします。「未来を切り拓く生徒」で説明した２・３番目の術を身につけるには、多くの体験と時間がかかります。したがって学校では、これを意図的・計画的に行っていくわけです。学級づくり、学年づくり、教科の学習、部活動、道徳や人権に関わる学習、美原祭（合唱祭）体育祭、宿泊学習などすべてのことの中にあります。是非,多くの機会を捉えて自分の得意なことを発見して下さい。ただし、人と比べるだけだったりすると、やはり自分の良さが、わからなくなってしまうので自己否定せずに社会で生き抜く力を身につけてください。

最後に「本気の笑顔を体験できる美原中学校」です。美原中学校の生徒は、１年生は、入学式で校長に向かってしっかりとした礼の姿や返事、２年生の集団の中での校外学習の話の聞き方。（会長さんが、みんなよく聞いてくれたので、苦労して資料を作った甲斐があったという感想より）生徒会朝会では、どの人もしっかりしたコメントができていましたが、３年生は、特にしっかりとした話の内容に感じました。また集会での落ち着いた様子、朝読書の静かなスタートなど、基本的な内容は、しっかりとできていると感じました。そうなれば、更に深い楽しみを感じる準備ができていることになります。

「本気の笑顔」とは、表面的な笑顔のことでなく、自分や自分たちのことを常に仲間と自分の両者を考え判断し「他の人々大切にすることを考え行動」し、決定する行為です。これが主体性のある行動で極めて重要です。そこで相互に人間として無条件に尊重し合う態度を育くみ、生徒は、失敗も成功もこの体験を行う過程ですでに自己肯定感のある行為があるので、自分も他人も本物の笑顔になります。

今日は、年度の初めなのでこのようなお話しをさせてもらいました。

これからもコロナにかかったり交通事故等などに遭うことの絶対ないよう注意して過ごしてください。これから大切な学校生活がたくさん待っています。　５月７日　全校朝会、校長講和より

※当日使用した原稿とは、紙面のスペースの関係上、一部割愛変更してあるところがあります。

校長見聞録

※このコーナーでは、私が観たり感じたことを少し肩の荷を少しおろさせて書かせていただくコーナーになりますので、ご理解ください。

さて、美原中学校に赴任して早いもので瞬く間に一月がすぎた。今年の４月は、桜の花は、早く峠を過ぎてしまったので、若葉の季節になりつつあったが、校長室にふり注ぐ光が新緑の葉を通しなんともすがすがしい光が降り注いだ。青空の日は、更に格別である。赴任したての校長職は、出張と書類・電話対応に追われなかなか生徒の顔をゆっくり見る時間もない。朝の職員の打ち合わせ時間を終え、担任の先生が教室に来る前に校長室を出て廊下に行くと朝読書前のにぎやかな若者の様子がうかがえる。早く生徒と話してみたいが、いきなり話すスキがないくらい生徒は、忙しそうだ。先日３年生の教室の前で朝読書をしていると、静かな教室から一人の男子生徒が水場に出てきた。手を洗ったと何かこぼしたのか丁寧に拭いていたので声をかけた「どうして拭いているの？」「後の人が・・」という気遣いの言葉に感じた。こういう生徒がいる学校は、いい。こういう様子を見ると思わず声をかけてしまう。また、この学校には、庭に花がたくさん咲いている。校内にも花が所々に生けてある。入学式の後に壇上の花が校長室にあったので庁務手の方に生徒のところにお願いしたら、剣道部の女子生徒が快く手伝ってくれて階段の踊り場隅にきれいに生けてある。これもいい。きっと沢山そんな生徒がいるのだろう、そんな生徒にもっと会いたい。